

4

月24日に金融庁は、「NISA口座の利用状況について」を発表した。この

統計によると、2014年のNISA口座での総購入額2兆9770億円に対し、年末の残高や受取配当等の総額は3兆3230億円となった。つまり、NISAで投資をした個人投資家の資産は時価で3460億円増えた計算だ。

単純計算では総購入額に対し11・62%増えた計算だが、年年初に全額が投資されたわけではないので年換算の収益率はもっと高い。金融庁の統計と日本証券業協会「NISA口座開設・利用状況調査結果」によるNISA口座での月当たりの購入額とを合わせ、14年におけるNISAでの投資収益率を大和総研で推計すると、実に年率23・06%となった。

もともと、好成績を挙げたのは去年の日本株の運用成績が好調だったからだけではない。14年の日本株（配当込みTOPIX）の投資収益率は10・27%と良好ではあったが、23・06%には及ばない。NISA口座で売れ行きの良い投資信託には外国株や国内外

NISA初年度は好成績 銘柄分散・時間分散の 投資が奏功か

数字は語る

大和総研金融調査部
研究員
是枝俊悟

年率 23.06%

2014年におけるNISAでの投資収益率

金融庁および日本証券業協会の統計を基に大和総研で推計した値

のREIT（不動産投資信託）などを投資対象とする銘柄も入っていたもようで、これらの14年の運用成績は日本株よりも良好であったとみられる。

また、NISA口座では毎月一定額の株式や投資信託を買い付け積立投資を行っている人も多い。14年の日本株の相場全体は前半で下がり後半に盛り返す形であり、積立投資を行っていると年央の相場が下がったときに多くの株数（口数）を買い付け、年末時点では時価が膨らむパターンであった。個々人がNISA口座でどのような買い付けを行ったかまでは分からないが、全体として見れば14年は銘柄分散・時間分散の投資が報われやすい相場であったということなのだろう。

むしろ年率23・06%もの収益率は「出来過ぎ」の数字であり、ここまでの成績が今後も続く可能性は高くないだろう。だが、NISAで初めて投資を行った投資初心者にとって、NISA初年度の運用成果は、今後も投資を続けていきたいと思えるような良い成功体験になったのではないだろうか。